|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **議事録** | | | | 作成日 | | 2013年12月03日 | | |
| 作者名 | | 中野拳吾 | | |
| **テーマ** | **Web e-ラーニングシステムの開発　開発経過報告** | | | | | | | |
| **開催日時** | 平成25年11月30日 | | 9:30~11:10 | | | | **開催場所** | 504 |
| **参加者** | 石井先生、田邊先生、3G1 | | | | | | | |
| **発表者** | 中野拳吾 (プレゼンター) | | | | 湯浅史奈子(オペレーター) | | | |
| 小野沢優太 | | | | 鎌田翔平 | | | |
| 佐藤央和 | | | | 森口直輝 | | | |
| **議題** | 1 | システム化の経緯 | | |
| 2 | 開発状況報告 | | |
| 3 | システム導入のメリット/  懸案事項 | | |
| 4 | 質疑応答 | | |
| 5 | 講評 | | |

| Ｎo | 議　　題 | 内　　　　　容 |
| --- | --- | --- |
| 1 | システム化の経緯 | 「１－１システム開発の背景」でこのシステムを作るに至った背景を説明。  「１－２想定する利用者」で、どのような人が使うのかを想定し、  システムを提供するのかを説明。 |
| 2 | 開発状況報告 | 「２－１システム利用の流れ」で、実際にe-ラーニングを使った  流れを説明し、「２－２デモンストレーション」でその流れを実際に見てもらいながら開発中のe-ラーニング機能を動かしてみた。  「２－３スカイプ質問機能」で、スカイプを使った質問機能のメリットを話した。 |
| 3 | システム導入のメリット  /懸案事項 | 「３－１システムを使うメリット」ではユーザとの信頼関係を確立し、利用者を増やすメリットを説明。「３－２システム導入時の懸案  事項」では実際にシステムを導入した後の不安要素、その対策  案を説明。「３－３システム利用者予想人数」で導入後から１年の間でどのくらい増えるか、またスタッフの増強についてグラフを使いながら説明。 |
| 4 | 質疑応答 | 鈴木（健）さん「Q.お客様は講師を何人登録しなくてはいけないのか？」   1. 講師の数イコールアカウント登録ではなく、講師につながるアカウントをあらかじめ数個用意しておき、それを登録してもらう   鈴木（健）さん「Q.講師があいているかどうかわからない場合は？」  A.空きがあるかどうかはスカイプの何らかの機能を使って判別できるようにする。  　それによってお客様は空いている講師に通話をかけてもらう。 |
| 5 | 講評 | ・良かった点  周囲を見渡し、間を取って話し始めるなど、聞き手に対する気配りができていた。  言葉遣いが丁寧で、誠実さを感じる。  音声を流すなど、印象に残るプレゼンになっていた  ・改善してほしい点  メニュー画面が一部貧弱なデザインのままだったのでそこを変えてほしい。  発表の準備に手間取っていて準備不足感が目立った  誤字があった |

|  |  |
| --- | --- |
| 次回に向けての課題 | ・メニュー画面の一新  ・プレゼンターとオペレーターの連携をもう少し  詳細に実行してもらう  ・システム紹介についての質問事項を  しっかりと予想しておく、このときの解答も納得の  いくものを用意 |
| 所感 |
| **中野　拳吾** | **湯浅史奈子** | |
| 今回はプレゼンターを務めました。問題点がいくつかあり、突然になってTomcatで表示されなかったこと（すぐに解決しましたが）や、発表時、添付資料についての説明不足など、様々なことが挙げられます。また、質疑応答の質問に対する解答が準備不足でとっさに答えられなかったことが痛かったです。しかし、前回指摘された懸案事項や、グラフを使った説明、デモンストレーションもそこそこ順調に進めることができたので、その点はよくできたと自分は思います。 | 初めてオペレータをやりましたが、練習したのに関わらず本番スピーカーの電源を入れ忘れてしまいプレゼンターの人が入れるなど、当日の準備不足が目立ってしまったので次は気を付けたいと思います。 | |
| **小野沢　優太** | **鎌田　翔平** | |
| 着々と開発が進んでいき今回の経過報告ができ、ちょうど折り返し地点を無事通過できたことに一応の安心を感じつつも、最後の完成、最終プレゼンに向けて最終調整をしつつ今まで解決できた問題点や、まだ残っている問題についてを踏まえ成功に向かって頑張りたいと思います。 | プログラミングの作業に集中していてプレゼンの作業に全く関与できなかったので、次回はプレゼンの方にも時間を割けるよう調整しながら、作業を進めていきたいと思います。 | |
| **佐藤央和** | **森口　直輝** | |
| プログラム作業に集中していたためにプレゼンの作業に関わってなく、プレゼンの練習に付き合ってるだけだったので、次回から作業に加わるようする。 | プレゼンターとオペレータの連携がうまくとれていたので、前もって打ち合わせていたおかげだと思いました。  開発にばかりに人員を割いてしまったので、今後はもっとプレゼンに協力的になりたいと思います。 | |